

10月 ひなぎくだより



桜の葉が、オレンジや黄色に姿を変え、少しずつ落ち始めてきました。ますます深まる秋を感じながら、自然との触れ合いを楽しんでいるひなぎくグループさんです。

夏場は熱中症対策のため、園庭に出る前に、水分補給と塩タブレットを食べていました。【コップを置いているお盆を机まで運ぶ】と、【塩タブレットの入っているカゴを机まで運ぶ】の2つがひなぎくグループさんのお仕事です。自分たちに任せることができて嬉しいようで、張り切ってお仕事をするふたり。「今日はコップするね、A君はラムネ（塩タブレット）でいい?」「いいよ」「じゃあ明日コップするわ」と、先生が間に入りながらではありますが、どちらを運ぶのか相談してくれています。

急激に気温が下がり、塩タブレットを食べる必要がなくなった日、楽しみにしているお仕事が1つ減ってしまい、どうしようかと悩みながら、ふたりに伝えてみると、「うーん、」と少し考えたあと、「じゃあ、ふたりで持ったらいいやん！」とA君。コップを落とさないように二人で息を合わせながら運んでくれました。



園庭で遊んでいると、誰かに踏まれたのか、殻が割れて中の白い部分が見えているどんぐりを見つけたA君。「先生！見て！」と、とんでもない発見をしたかのように教えてくれました。隣にいたお友だちも興味津々で、どんぐりを拾ってきて、手で割ろうとしますが硬くてできません。私が木槌を持ってきて、割る様子を見せると「わたしも！」と、一緒に木槌を持ってどんぐりにひびを入れました。そこからは、何も話さず、ただただ集中してどんぐりの殻を剥くBちゃん。爪が欠けてしまっても気にするそぶりもありませんでした。そして、殻が剥けたときの満足気な表情✨それから、A君も加わり、何度もどんぐりの殻を剥いて遊びました。

大人にとっては、ただのどんぐりの殻かもしれませんが、子どもたちの世界ではきっと、すごい発見、感動なのだと思います。子ども時代に、自分の手で自然を感じて、確かめていく、その過程が好奇心を育み、生きる力の土台となっていくことでしょう。



担任 加瀬悠華